

---

第4期  
相模原市緑区区民会議  
報告書

---



相模原市緑区区民会議  
平成30年7月

---

## 報告にあたって

---

区制を生かした市民協働によるまちづくりの実現のため設置された区民会議も、ここで第4期の任期が終了することとなりました。

第4期区民会議では、区民との協働によるまちづくりの指針として策定した「緑区区ビジョン」の推進に向け、緑区区ビジョンの評価及び情報発信について、協議を行ってまいりました。

区民会議で協議された内容は、この報告書の中で提案として区民の皆さんに提示させていただきます。この提案が区民の皆様が緑区について考えるきっかけとなり、緑区の活性化への一助になれば幸いです。

結びとして、このたびの報告書の策定にあたりまして、ご協力いただいた関係者の皆様をはじめ、熱心に議論を賜りました委員の皆様に対し、心よりお礼申し上げます。

平成30年7月

相模原市緑区区民会議  
会長 松井 望

---

# 目次

---

## はじめに 1

区民会議の目的	1
緑区の区民会議	1
第4期区民会議開催状況	2
第4期区民会議委員名簿	3
第4期区民会議 審議経過イメージ図	4

## 緑区の現状と課題 5

緑区の現状	5
緑区の課題	7

## 検討別分野の審議内容について 9

緑区区ビジョンの評価について	9
課題解決に向けた取り組みの提案	10

## 地域活動の情報発信についての審議内容 15

現状分析	15
課題解決に向けた取り組みの提案	15

## 次期の策定に向けて 21

---

## はじめに

---

### 区民会議の目的

区民会議は、政令指定都市移行に伴い施行された区制の導入にあわせて、各区の課題やまちづくりの方向性について協議を行う場として設置された附属機関(注1)で、区域内のまちづくりに関する次のような事項について話し合ったり、提案したりする機関です。

#### 【区民会議における協議事項の例】

市長より諮問される事項      区ビジョンの推進に関すること  
その他区民会議の目的達成に必要な事項

#### (注1) 附属機関

附属機関は、法律や条例に基づき設置されるもので、市民や専門家の意見を行政に反映させるため、審査や調査などを行う機関のことです。

### 緑区の区民会議

緑区区民会議(以下、「区民会議」という。)の第1期においては、区の将来像や協働によるまちづくりの指針となる「区ビジョン」の策定に向け、市長からの諮問を受け、緑区の特色や課題、将来の方向性等について協議を重ね「緑区区ビジョン」として答申いたしました。

第2期(平成24年7月から平成26年7月まで)では、「緑区区ビジョン」で掲げた区のめざす将来像『地域の個性が輝き 活力あふれる交流のふるさと緑区』の実現に向け、テーマを設けて区ビジョンの推進方策について協議を行いました。

第3期(平成26年7月から平成28年7月まで)では、人口減少や少子高齢化の進行が予測される区の状況を勘案し、観光をテーマにした「未来を拓く活性化検討小委員会」と、定住をテーマにした「魅力ある地域コミュニティ検討小委員会」の2つの小委員会を設け、区ビジョンの推進に向けた具体的な方策について協議を行いました。

#### 【未来を拓く活性化検討小委員会】

圏央道の開通や津久井広域道路の整備、リニア中央新幹線の神奈川県駅の設置など、緑区のポテンシャルが飛躍的に向上する中、区内に点在する観光資源を活用し、ネットワーク化を図ることによる地域活性化策などについて協議しました。

#### 【魅力ある地域コミュニティ検討小委員会】

自治会加入率の低下や津久井地域の過疎化などが進む中、地域コミュニティの形成や地域の魅力づくりの観点から、若い世代や子育て世代の移住・定住促進に向けた方策などについて協議しました。

平成28年7月からスタートした第4期では、「緑区区ビジョン」の評価を班に分かれて行い、区の共通の課題として、地域の情報を一括で発信する必要性などが挙げられるなど、更なる区ビジョンの推進に向けた対応方策について、協議を行いました。

#### 第4期区民会議開催状況

回次	開催月日	出席者数	傍聴者数	審 議 内 容
1	平成28年 9月12日	22人	0人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑区区ビジョンについて</li> <li>・第4期緑区区民会議の進め方について</li> </ul>
2	11月21日	23人	0人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの区民会議の経過について</li> <li>・緑区区ビジョンの評価について</li> </ul>
3	平成29年 2月13日	22人	0人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑区区ビジョンの評価について</li> </ul>
4	7月7日	21人	2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑区区ビジョンの評価について</li> <li>・情報発信の取り組みについて</li> </ul>
5	平成30年 3月27日	19人	1人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の情報発信に関するアンケート結果について</li> <li>・情報発信に係る課題の解決方策について</li> <li>・今後の予定について</li> </ul>
6	5月28日	17人	1人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の情報発信について</li> <li>・第4期緑区区民会議報告書の構成について</li> <li>・区の課題解決に向けた取り組みについて</li> </ul>
7	7月18日	21人	1人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4期緑区区民会議報告書（素案）について</li> </ul>
合計		延145人	延5人	

## 第4期区民会議委員名簿

(順不同・敬称略)

氏名	所属等	備考
松井 望	学識経験者(首都大学東京)	会長
草野 寛	相模原市自治会連合会	副会長
柳 信幸	橋本地区まちづくり会議	
田野倉 義信	橋本地区まちづくり会議	
中山 光明	大沢地区まちづくり会議	
吉村 幸弘	大沢地区まちづくり会議	
山下 利麿	城山地区まちづくり会議	
曾根 哲男	城山地区まちづくり会議	
落合 勝司	津久井地区まちづくり会議	
関戸 佐助	津久井地区まちづくり会議	
森久保 眞二	相模湖地区まちづくり会議	
長谷川 兌	相模湖地区まちづくり会議	
森川 哲郎	藤野地区まちづくり会議	
小山 秀文	藤野地区まちづくり会議	
今井 俊昭	市社会福祉協議会	
岡崎 敏	市立小中学校PTA連絡協議会	
上原 泰久	相模原商工会議所	
小川 喜平	津久井地域商工会連絡協議会	
永井 宏一	相模原市観光協会	
本田 泰章	津久井青年会議所	
山本 篤史	KADOKAWA	
栗島 建治	公募委員	
白阪 洋一	公募委員	
松崎 博子	公募委員	

### 第4期区民会議委員(前任)

(順不同・敬称略)

関 欣人	橋本地区まちづくり会議	
宗田 眞理子	城山地区まちづくり会議	
澤塚 正史	相模湖地区まちづくり会議	
加藤 一嘉	相模原市観光協会	

## 第4期区民会議 審議経過イメージ図

区ビジョンの評価

区内の活性化・  
商工業・観光振  
興に関する事業

安全・安心、環  
境、地域コミュ  
ニティに関する  
事業

担い手づくり

共通する課題として情報発信の重要性を認識

地域での取組などの調査・情報提供・意見交換

緑区内で活動する地域団体を対象とした「地域活動の情報発信に関するアンケート」の実施  
緑区特設サイト「すもうよ緑区」の紹介

情報発信について意見交換

区の課題解決に向けた取り組みについて意見交換

次期総合計画へ向けた課題と取り組みについて(提案)

# 緑区の現状と課題

## 緑区の現状

### 1 概況

緑区は、区東部においては工業や商業、業務機能などが集積するとともに、区の西側は美しいやまなみや湖・河川など豊かな自然が広がる地域で、面積は 253.8 平方キロメートル、市域の 77.2%を占める、本市の中で最も広い面積の区です。

橋本駅周辺は、鉄道や道路など広域的な交通の要衝となっており、市街地再開発事業などにより都市基盤が整備され、商業施設や高層住宅、文化施設が集積し、本市の中心市街地の一つとして発展してきました。また、交通利便性を生かして多くの工業が集積し、本市の内陸工業都市としての発展を支えてきました。

区の西側、津久井地域においては、山林や農地、湖、河川、里山など、自然豊かな水源地となっており、自然と調和したまちづくりが進められています。





## 2 交通

区東部の橋本地区は、JR 横浜線・相模線、京王相模原線をはじめ、国道 16 号、国道 129 号、国道 413 号など、広域交通の結節点をなしています。また、区内には、橋本地区、城山地区、津久井地区を結ぶ国道 413 号、相模湖地区から厚木方面を結ぶ国道 412 号、相模湖地区・藤野地区と都心や山梨方面を結ぶ JR 中央本線、中央自動車道、国道 20 号などが通り、交通の骨格をなしています。さらに、圏央道相模原インターチェンジ及び津久井広域道路の一部が開通したことにより、本地域の広域的なアクセスが向上し、周辺の活性化が期待されています。

2027 年（平成 39 年）には、リニア中央新幹線の神奈川県駅が橋本駅周辺に設置される予定であり、土地利用転換の可能性を含め、将来のまちづくりの発展性が非常に高くなるが見込まれます。



## 3 自然

区の西部に位置する津久井地域は、広大な森が水を育み、相模川や道志川などの清流、津久井湖、相模湖などの湖が水をたたえる、自然豊かな水源地です。

津久井地域の西部は、蛭ヶ岳（1673m）を最高峰に丹沢山塊からなる丹沢大山国定公園、北部は、陣馬山などからなる県立陣馬相模湖自然公園と、広大な森林が広がる美しい自然環境に恵まれています。

津久井地域ではこのような自然資源とともに、自然を生かした民間テーマパークが立地しているほか、小原宿本陣や県立藤野芸術の家などの歴史・文化資源等も点在しています。

区の東部、大沢地区では相模川の自然を生かし、上大島キャンプ場や相模川清流の里、相模川散策路が整備され、相模川や周辺の自然とのふれあいの場として、多くの市民に親しまれています。



### ( 1 ) 各地区の魅力的な資源が活用・連携されていない

区内の各地区には、例えば相模川や道志川といった清流、津久井湖や相模湖、宮ヶ瀬湖などの五つの湖、陣馬山や石老山などハイカーに人気の山々のほか、里地里山、キャンプ場、天然温泉など、多くの観光資源が点在しています。また、各地区の観光協会や商工会、地域活動団体などにより、自然、歴史、芸術、伝統、文化などの多彩な地域資源を活用した様々なイベントや体験プログラムが実施されているなど、区内には魅力的な資源が豊富にあります。

その反面、緑区全体として捉えた場合、これらの観光資源やイベントについては他地区・他の地域活動団体との連携及び回遊性が希薄であり、集客力や情報発信力が十分に発揮されていないなど、魅力が分散されている状況にあります。各地区の資源を有機的に活用・連携し、緑区全体としての魅力を高めることが求められています。

### ( 2 ) 緑区全体をPRするための核となる素材が明確ではない

区内には、様々な観光資源や地域資源、特産品が豊富にあります。

その一つひとつは、非常に魅力的であり、地域の方々をはじめ市外からの来訪者にも親しまれ、時としてメディアで取り上げられることにより、注目されることもあります。

しかしながら、その一方では、「緑区といえばこれ」という、対外的にインパクトのある素材があるとは言い難いのではないのでしょうか。区外、市外に向け、緑区の魅力を継続的・効果的に発信するため、点在する地域資源の魅力を認識した上で、緑区全体をPRするための核や素材を明確にすることが求められています。

### ( 3 ) 緑区を取り巻く交通網の状況の変化への対応

圏央道相模原インターチェンジや津久井広域道路の開通により、東名高速道路・中央自動車道等への利便性が向上し、高速道路等を利用した広域交通のポテンシャルが飛躍的に向上しました。また、リニア中央新幹線の神奈川県駅の設置が予定されている橋本駅周辺は、圏央道や鉄道（横浜線・相模線・京王線）が集中しており、今後、リニア中央新幹線の開通により、首都圏南西部全域と羽田空港や中部・近畿圏とのアクセスの飛躍的向上が図られ、首都圏を牽引する国際的な都市圏として発展していく可能性があります。

今後、こうした交通利便性の向上と中山間地域の豊かな自然を活用した取組を進めることにより、中山間地域と都市部が相互に補完し合いながら、緑区全体の活性化を図ることが求められています。

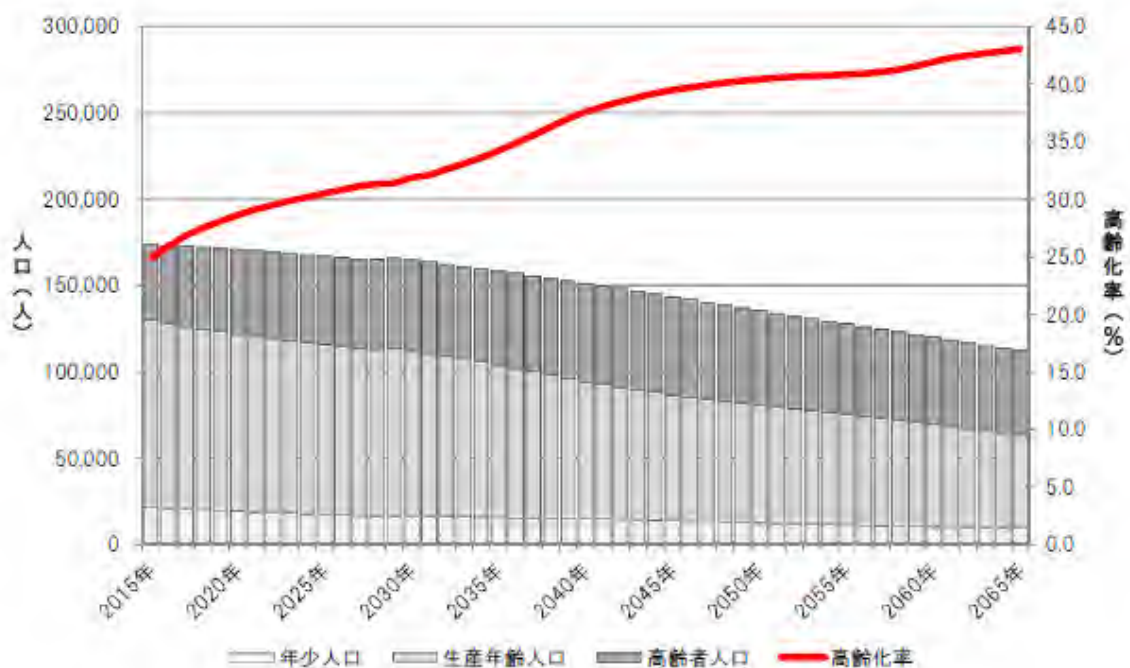
#### (4) 緑区の少子高齢化・人口減少の進行

「平成27年国勢調査結果」によると、緑区の人口が大幅に減少しているなど、少子高齢化・人口減少が進んでいる状況にあります。また、「2015年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計報告書」によると、緑区の人口は、今後も一貫して減少し、2065年には112,219人まで減少すると推計されています。社会動態については、おおむね転出超過傾向となっており、大幅な自然減と相まって人口減少が他の2区より顕著となることが予想されています。50年間の増減率については、35.4%の減少、2065年の高齢化率は43.0%となっており、増減率の減少幅、高齢化率の上昇割合ともに3区の中で最も高くなる見込みです。

特に中山間地域を含む津久井地域の人口減少が顕著であり、今後こうした傾向がますます進行するものと推測される中、歯止めをかけることが急務となっています。

また、少子高齢化の進展により地域団体の高齢化をはじめ、人口の減少による空き家の増加、コミュニティの希薄化などの問題が顕在化してきており、区ビジョンで示す将来像「地域の個性が輝き 活力あふれる交流のふるさと緑区」の実現に向け、大きな課題となっています。

緑区の人口と高齢化率の推移



平成27年国勢調査結果

地域	人口	平成22年～27年の人口増減	
		人数	率(%)
相模原市	720,780	3,265	0.5
緑区	173,612	-2,580	-1.5
中央区	269,888	2,906	1.1
南区	277,280	2,939	1.1

## 検討別分野の審議内容について

### 緑区区ビジョンの評価について

現行の緑区区ビジョンについて、重点プロジェクトである「未来を拓く道プロジェクト」「やすらぎの水源プロジェクト」「いきいき交流プロジェクト」を中心とし、また、「いきいきとした市民力の育成」の分野について、3つの項目に整理して話し合い、評価を実施しました。（別紙1「緑区区ビジョンの評価結果について」参照）

#### 【検討分野】

- 1 区内の活性化・商工業・観光振興に関する事業
- 2 安心・安全、環境、地域コミュニティに関する事業
- 3 担い手づくり

#### 1 区内の活性化・商工業・観光振興に関する事業

現在、個人・団体が地域で実施している地域活動について、個々の点で活動する状態から、連携して、緑区全体として発信する面へと広げることができる観光情報の仕組みづくりが必要です。地域の方々と協力し、常時観光客を受け入れられるような体制づくりが必要とされています。

各々が多くの取り組みを行っていますが、周知がなされていないと感じられるので、緑区全体で一体感を感じられるような事業への取り組みが必要です。

また、緑区が持つ水源地の魅力を発信するため、学校の授業等で子ども達に教育の観点として伝えていくことも必要であると考えます。

#### 2 安全・安心、環境、地域コミュニティに関する事業

地域の安全・安心については、地域の実情を踏まえた防災組織が必要とされています。また、自治会の加入促進などによる更なる地域コミュニティの醸成が必要です。

また、地域の祭りやイベントの活性化として、区内外に更に活動を伝達するため各地区のイベントに相互参加するなど、地区を超えた交流についても必要です。

#### 3 担い手づくり

地域の担い手の育成を目的に、団体間の連携を通して、お互いの活動をよりレベルアップしたり、学生も含めた若い年代層の人材を巻き込んで地域活動を行っていくこ

とが必要です。また、分野を超えて、横断的に全体をまとめる核となる人材の確保についても必要です。地域活動の情報を知ってもらうため、年代や対象別に効果的な手法による情報発信も必要であると考えます。

## 課題解決に向けた取り組みの提案

緑区ビジョンの更なる推進を図るとともに、地域活性化を促進させるため、次のとおり方策を提案します。

なお、取り組みの時間軸の目安としては、短期は財政的な支援がなくても市民等が数人でまとまってすぐに実施可能なもの、中期については費用対効果などを見据えながら、市民と行政が協働で推進し、3年程度時間を要するもの、長期は実現のために行政の経済的支援などを行うことも視野に入れた、長期的な時間を要するものとして考えています。

### 1 区内の活性化・商工業・観光振興に関する取り組み

#### 【ポイント】

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたPR
  - ・体験型観光を通じた地域活性化
- 取組の中心：行政、各観光協会、各商工会、各種団体、地域

緑区を更に多くの人に知ってもらい、緑区全体として発信する面へと広げることができる観光情報の仕組みづくりが必要です。そこで、次の2点について、提案します。

#### (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたPR

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、緑区においては相模湖漕艇場において、カナダのボートチームが事前キャンプを行うなど緑区の魅力を世界へ発信できる一大契機です。この機会を活かして、地域の魅力を外の人に目を向けてもらえるよう、ボート大会の開催の誘致など継続した事業の実施が必要です。

#### 【取り組み】

- ・地域団体の情報の精査【短期】
- ・担い手づくり、地域団体間の協力【中期】
- ・長期的な持続可能なPR体制・事業の構築【長期】

#### (2) 地域資源を生かした体験型観光の推進

各地域において、現在、体験型観光を実施している地域団体は多いと思います。し

かしながら、緑区全体としてPRしていくにあたり、面としてPRできるような体制づくりが必要です。また、他地域との資源を結びつける広域的な観光についても、推進していくことが必要です。

**【取り組み】**

- ・ 地域団体の現状把握【短期】
- ・ 地域団体の支援を行う関係機関との協力【中期】
- ・ 体験型観光を受け入れる窓口の集約【中期】
- ・ 広域的な観光の推進【長期】

## 2 安全・安心、環境、地域コミュニティに関する取り組み

**【ポイント】**

- ・ 防災ハザードマップを活用した防災意識の向上
  - ・ 地域の見守り活動の強化
- 取組の中心： 行政、地域、各種団体

( 1 ) 防災ハザードマップの有効活用

災害が発生した際、どのようにして避難するかが重要です。住んでいる地域のハザードマップに応じて、避難する経路についても考えていくことが必要です。そして情報をいかに地域の住民同士で周知していくかが課題です。

**【取り組み】**

- ・ 防災ハザードマップに適合した避難計画の策定【短期】

( 2 ) 地域の見守り活動の強化

子どもの安全などを確保するために、不審者情報などの情報を提供し、地域の見守りを更に増やしていくべきであると考えます。

**【取り組み】**

- ・ 地域団体や関係機関、警察等と連携を図り、防犯に対する普及啓発の実施【短期】
- ・ 自治会の加入促進などによる更なる地域コミュニティの醸成【短期】
- ・ 地域住民のニーズにあった防犯体制の推進【中期】
- ・ 共助（地域コミュニティ）の強化【中期】

## 3 担い手づくりに関する取り組み

**【ポイント】**

- ・ 世代間交流イベントの開催
  - ・ 若者世代への地域行事への参加促進
- 取組の中心： 行政、地域、各種団体

## ( 1 ) 世代間交流の促進

地域の担い手不足については、核家族化や地域コミュニティの希薄化などにより、地域との接点がなくなってしまったがために発生していることもひとつの要因とも考えられます。

そのため、世代間が交流できるようなイベントを開催して、お互いが知り合いになり、その結果、連携してお互いを補えるようになっていくのではないのでしょうか。そのためには、まずは、世代間交流イベントを開催する必要があると考えます。テーマを設けて地域の人々で気軽に集まり、まずはお互いを知ることから始めていくことが必要であると考えます。また、団体だけではなく、区どうしの団体の理解・交流促進を図るため、イベントを通じた区間交流についても、推進していくことが必要です。

### 【取り組み】

- ・ 世代間交流イベントの開催【短期】
- ・ 若い世代をターゲットとした地域イベントへの参加促進 【短期】
- ・ 区間交流イベントの検討・実施【中期】
- ・ 地域団体の情報が共有できるネットワークづくり【中期】

## ( 2 ) 若者世代への地域行事を通じた地域の愛着の醸成

近隣の小学生から大学生を地域の行事に積極的に巻き込んでいく必要があります。地域の人も若者世代が参加すると、やる気が出て活動意欲が湧いてくることで、更なる相乗効果が望めます。また、更に地域活動に取り組んでもらうために、若者世代が活躍できる場の提供を支援する必要もあります。こうすることで、次に繋がる若者が地域に参加しやすい仕組みが作れると考えます。また、自転車などの緑区ならでは資源を活用した活動についても、地域全体で伝えていくことが必要です。

### 【取り組み】

- ・ 子ども達への地域の自治会についての教育【短期】
- ・ 子ども達の地域行事への参加促進【短期】
- ・ 大学生等の地域活動・地域行事への参加促進【短期】
- ・ 地域への子ども会等の理解促進【中期】

### 【各項目の共通課題】

#### **事業、活動の情報発信の強化**

緑区内で活動する地域活動団体へ情報発信に関する現状把握のため、アンケートを実施しました。そのうえで委員同士で意見交換を実施し、具体的な取り組みについて、検討を行いました。

【主な意見】(抜粋)

(区内の活性化・商工業・観光振興に関する取り組み)

県がオリンピックの事前キャンプに向け、相模湖を整備するので、外の人に目を向けてもらう方策としては、大会を開催するなどがある。緑区は自然が豊かで、お米作り体験などの体験型農業もあり、年々参加者も増加傾向であるため、自然資源を活用したほうがよいと考える。ボートについても、体験型イベントとしてPRことができるのではないかとと思われる。

事業を単発で終わらせず、長期的に考える必要がある。

イベントについては、長続きさせ、地元と融合していくべきである。

長期的な視点では、リニアの体験型観光も考えることができるのではないか。

地元の住民がガイドを行うガイドツアーの実施をしている所もある。

ものづくりでは、地域にはそば作りや大豆からのみそ作りがある。こういったことを知らない人にも伝えていったほうがよい。

緑区のサイト「すもうよ緑区」に情報を掲載してもらうことで、対象を広範囲に周知できるのではないか。

(安全・安心、環境、地域コミュニティに関する取り組み)

8月から、市の土木事務所で、津久井、相模湖、藤野の住宅地図を使用しハザードマップを作るとのことだが、それに対応した避難計画等を行政が作るべきである。

自治会が衰退しており各単位自治会単独では事業実施が難しくなっている。複数の自治会で協力して事業を行う、または、自治会の合併を検討する必要について考えた方がよいのではないか。

地域の安全・安心について、防犯カメラの設置も費用の問題があり限定される。防犯メジャーや、見守り活動等の地道な活動を続けるしかないのではないか。

地域の安全・安心という観点で、津久井地域では鳥獣被害が加わってくる。クマなどについては、死活問題である。

地域のお祭りや活性化について、人材バンクの活用は良いかもしれないと考える。お祭りの際に、手品など出し物ができる人を登録しておけば活用ができる。今は、行政や地域、公民館といった、それぞれの団体が人材の情報を持っているが、行政なりで情報を集約し活用でき



るようにすれば良いと考える。

(担い手づくりに関する取り組み)

P T Aの登下校の見守りも保護者は仕事に行っていないという人も増えている。若者は若者世代で活動し、高齢者世代は高齢者世代で活動している。お互いに、担い手がいないということもあるので、イベントを開催して知り合いになって、その結果、連携してお互いを補えるようにできたらと思うので、まずは、世代間交流イベントを開催する必要がある。

近隣の大学生、高校生、中学生、小学生等を地域の行事に巻き込んで小さいうちから地域活動に参加させ地域の愛着心を育てる必要がある。課題については締め切りを設けるべきである。また、短・中・長期を問わず、期限を設けることで責任の所在を明確にすべきである。

## 地域活動の情報発信についての審議内容

### 現状分析

区内の地域団体の情報発信に関する検討を進めるにあたり、現在の団体の情報発信の状況や課題を把握するため、アンケート調査を実施しました。

#### 【調査概要】

- (1) 調査対象 緑区内の地域で活動する各種団体
- (2) 期間 平成29年9月4日～10月31日
- (3) 配布数 120枚(回収数：53枚)(回収率44.2%)
- (4) 配布方法 各地区まちづくり会議を通して配布、また、まちづくりセンターに依頼し、関係団体に配布

#### 【調査項目】

- (1) 情報発信の状況
- (2) 情報発信媒体
- (3) 情報発信するにあたっての課題

#### 【調査結果】

別紙2「地域活動の情報発信に関するアンケート」参照

### 情報発信の課題解決に向けた方策について

緑区ビジョンの推進を図るとともに、情報発信の観点から地域活性化を促進させるため、区民会議として、次のとおり方策を提案します。

#### 1 情報発信の基礎情報づくりの充実

##### 【ポイント】

- ・情報を届けたい層の見極め
  - ・地域情報紙の活用を目的とした掲載方法の整理・周知
- 取組の中心：行政、各種団体

##### (1) 発信情報の精査・確認

参加者を増加させるためには、対象層へ効果的な発信を行い、伝えたい情報を精査することが必要です。伝達したい対象層の場面において、判断を行って情報を発信していく必要があります。情報を発信したい団体において、まずは「5W1H（何を、

誰に、いつ、どこで、どうして、どうやって)」を意識して、情報を届けたい層を見極めた上で、情報を発信する必要があると考えます。

### (2) 情報発信媒体の利便性向上

情報を発信するにあたり、使用する媒体を対象層に合わせて選択することが重要です。地域性によって異なりますが、地域住民に対して情報を発信する場合には地域情報紙は有効な手段です。

しかしながら、掲載方法が複雑で掲載することに対して敷居が高いと感じてしまうことがあるとの意見がありました。そこで、地域情報紙に記事の掲載を依頼する際は、統一した作成手順の周知をしていただき、地域団体が更に気軽に地域情報紙を活用できるようにまとめることで、地域の人々が利用しやすい情報のツールとして更に認知されるのではないのでしょうかと考えます。

また、緑区としての地域情報の共有化について、地域情報紙を横断的にとりまとめるなどの方策についても必要であると考えます。

## 2 人材の活用

### 【ポイント】

- ・ 団体同士の協力体制を強化
  - ・ 人材バンクの整備を推進
- 取組の中心：行政、各種団体

### (1) 潜在人材の活用

アンケートにおいても、パソコンを操作できる人材が少なく、苦慮しているとの意見がありました。パソコンの操作については所属する団体だけではなく、地域でパソコンを学ぶ団体へ依頼したり、市民・大学交流センター等と連携して、地元の学生に作ってもらうなど、他の団体・人材と協力して情報を発信していくことも必要です。

### (2) 地域の実情に合わせた情報発信

情報の周知方法について、地域特性を加味した上で、地域の実情に合わせて選択していくことが重要です。また、緑区特有の活動などを活用した情報発信も有効です。

### (3) 人材バンクの整備

現在、地域で潜在的な技術や能力を持っている人たちを集約し、手助けを求めている人に情報が伝わるよう、人材の登録を行い、マッチングする仕組みを備えた人材バンク制度の整備を行うことが必要であると考えます。

### 3 団体間の交流の促進

#### 【ポイント】

- ・他地区団体とのイベントを通じた交流の促進
  - ・団体間の交流促進のための基盤づくり
  - ・区を一体とした情報発信の推進
- 取組の中心：行政、各種団体

#### (1) 他地区団体との連携に向けた交流の実施

アンケートの回答においても情報発信の課題のひとつとして、人材の不足があがっていました。そうした課題を解決するためには、まず、自身の団体の状況を確認し、課題を整理するために団体自体の人材・情報の整理を行ったうえで、他団体との知識の共有を行うべきであると考えます。

知識の共有については成功事例だけでなく、失敗事例も含めて共有することで、より団体同士の認識が深まることが考えられます。また、人材育成を行うためにも、団体同士の横のネットワークをしっかりと形成・強化した上で知識を共有していくことが必要です。例えば、緑区絆づくり交流会などのイベントにおいて、団体と参加者だけでなく、団体同士の交流促進も図っていく必要があります。

また、情報発信が一方通行にならないようにすることが大切です。全ての人が情報の発信者であり、同時に受け手でもあります。そうしたことを認識した上で、受け取った情報をどうしていくべきか考える必要があります。

#### (2) 団体間の交流促進のためのネットワークづくり

上述したとおり、各団体が抱えている課題や、成功もしくは失敗した事例を共有し、自らの活動に反映していくことは重要なことです。

現在、地域で活動している団体の中には、他団体の連携に取り組んでいたり、また、分野ごとに連絡協議会といった組織を立ち上げ、情報の共有化を図っている事例もありますが、地域活動団体を包括的に捉え、連絡調整を行う仕組みが整備されていないのが実情です。今後は、各団体の交流促進を行うとともに、情報の共有化と連携強化に向けたネットワークづくりに取り組んでいく必要があります。

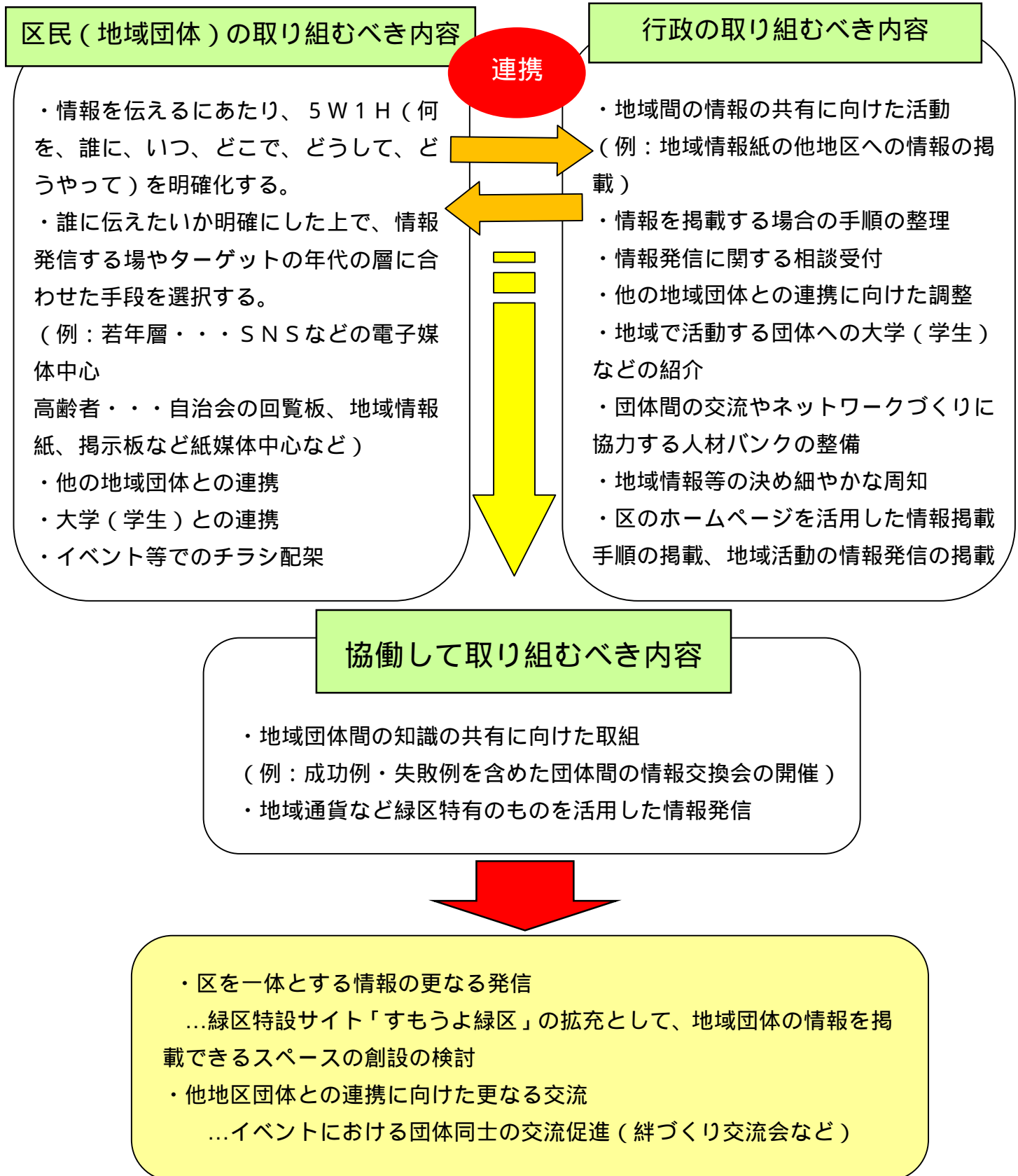
#### (3) 区を一体とする情報の更なる情報発信

緑区内の地域団体等の活動情報などを一覧にすることで、団体間の交流や情報交換ができ、より団体活動の活性化及び技術の向上に繋がるといわれるといった意見がありました。

緑区では、平成29年3月に観光情報や移住・定住の促進を目的としたサイトである、緑区特設サイト「すもうよ緑区」が開設されましたが、こういったサイトを活用

して、緑区として1つの場で地域団体の情報を掲載できるスペースの創設の検討などが必要であると考えます。地域団体が気軽に情報を掲載できることで、より地域を身近に感じてもらうことができる仕組みづくりが必要です。

【情報発信の取り組みのイメージ】



【主な意見】

アンケート内において回答している団体も様々だが、課題として知識・人材不足等が挙げられている。以前は紙媒体や雑誌なども出版社などの専門的な所でしか発行できなかったが、現在は印刷技術が向上し、パソコンを使って自動で本が作れるシステムができるなど、技術面でのハードルは非常に下がっていると思う。また、ネット上で検索したり、ソフトを使用することで専門的なことができるようになってきているほか、ウェブサイトについても同様で、ハードルは下がってきていると思う。

人材不足については、区民会議でもたびたび課題として出てきていると思うが、横のネットワークが弱いことが原因としてあり、知識の共有ができていない。知識の共有というのは成功事例だけでなく失敗事例も含まれる。お互いを高めていくためにはこういう発信をしたら失敗した、自分の地域ではこういうやり方をしたら成功したなどの話し合いも必要である。人材育成というためにも横のネットワークはしっかり作った上で知識を共有していくことが必要であると思う。

ホームページについては、地元の学生に作ってもらうという手もある。SNSに関しては、登録だけすればすぐにできるので、有効に活用できると思う。

伝えたい人に何を使ってどう伝えるかが大切である。自治会加入率が高い地区では、回覧版も情報発信の手法として有効である。

地域によっては大学生と連携して実施して情報発信しているところもある。

伝えたい人に伝えたい情報を発信することが重要。手段を間違えると伝える必要のない人に情報が伝わってしまう恐れがある。

若い世代への情報発信はSNSが有効である。

情報が多くなりすぎている。本当に必要な情報は自分から取りに行くことも必要ではないか。

場面場面で向き不向きの情報発信の方法がある。その場面で情報発信の方法を使い分けることが必要ではないか。

情報発信する人それぞれのスキルアップが必要なのではないか。

情報発信は自治会の回覧や掲示板がかなり有効だと考える。

地域によっても違いがあり、高齢者が多い地域では、ホームページに掲載しても見ない。

情報発信と言うが情報量が多くても見ないと思う。イベント等は単発でチラシを配布する方が有効ではないか。

以前、地域でパソコン同好会等をお願いして情報発信してもらった事例を聞いている。地域団体でも団体間の交流やネットワーク作りに力を入れてもらいたい。

行政等では、団体間のネットワークづくりに協力する人材バンクのような団体バンクなどを整備してほしい。

地域情報紙も有効だと考えるが、地区ごとに作成されているので、緑区内の6地区共通の紙面を設け、まちづくり区域外にも発信できるように整えていくのはどうか。

地域情報紙は、かなり情報が詰まっており、回覧では見落とすこともある。各戸配布することも有効ではないか。

情報を持っていても、それがどこでとりあげてもらえるか分からないといった悩みがある。また、情報過多で情報が見きれないといった課題もある。年代によって情報を分けて発信することも必要なのではないか。

地域情報紙を回覧ではなく、各戸に配布できないか。

情報を発信するにも集約する場合は手順が多くて面倒になってしまうので、掲載する場合のフローなどきめ細かい対応も必要にならないか。

手間、人、コストをかけなくてもすぐできることはあるはず。フットワークを軽くし、スピード感を持って行えることを進めるべきである。

### 緑区に関連する国・本市の計画策定等

#### 1 中山間地における人口減少への対応

中山間地域を含む津久井・相模湖・藤野地区においては、2060（平成72）年に、人口で現在の70%減、高齢化率は60%を超えると見込まれています。

緑区では、平成29年3月に緑区特設サイト「すもうよ緑区」を設立し、地域団体と連携しながら移住促進に向けた情報発信を行っているところです。

しかしながら、若年層の流出、少子化傾向が強い状況等を考えると、地域住民の生活基盤の維持・向上や、地域コミュニティの活性化など、定住人口の確保に向けた中・長期的な対応策が必要となります。

#### 2 世界最大の経済集積圏 スーパーメガリージョンの形成プロジェクトを生かした活性化

リニア中央新幹線の整備を契機に、本市においてはリニア中央新幹線神奈川県駅（緑区橋本）周辺を中心とした経済集積圏 スーパーメガリージョンを形成していくことが、国の「首都圏広域地方計画」に位置づけられました。今後は、このことを生かし、緑区全体の活性化につなげていくことが必要となります。

### 次期総合計画 区別基本計画の策定に向けた検討

緑区では、平成24年8月に「相模原市緑区区ビジョン」を策定し、これまで区民会議においてご審議をいただきながら、「緑区区ビジョン」の着実な推進に取り組むとともに、地域の魅力を生かした「緑区らしさ」の創出に向け、区民の交流や連携を促進する取組などを実施し、区としての一体感の醸成に努めてまいりました。

今後、平成32年度から次期総合計画が始まるにあたり、総合計画内に区の特性を踏まえたまちづくりの基本的な方向を示す、区別基本計画を定めることになりました。それに伴い、区民会議では、次期総合計画区別基本計画の策定に係る諮問に対する答申について検討するため、これまでの取組を継承しながら、リニア中央新幹線の神奈川県駅の設置や、圏央道相模原インターチェンジ周辺の新たな拠点整備など緑区を取り巻く環境の変化を的確に捉え、緑区全体の活性化につなげていくことが求められます。

このため、国の「首都圏広域地方計画」をはじめ、緑区に関連する各種計画の進捗状況を踏まえ、緑区区民会議において次期総合計画の区別基本計画の諮問に対する答申に向けた検討を進めます。



#### 第4期相模原市緑区区民会議報告書

発行 平成30年7月  
相模原市緑区区民会議  
編集 相模原市緑区役所区政策課  
所在地 〒252-5177  
相模原市緑区西橋本5-3-21 緑区合同庁舎内  
電話 042-775-8802 FAX 042-700-7002  
Eメール g-kuseisaku@city.sagamihara.kanagawa.jp



緑区イメージキャラクター  
ミウル

